

第二期中期計画（案）における今後検討を要する点

- ①中期目標に掲げられている内容について、中期計画に反映されているか否かが不明確なものが見られる。中期計画は中期目標を達成するための計画であり、明確に記載する必要がある。

例) 【教育/学士課程/入学者選抜】 p1 (1)-ア-①

「優れた志願者を募るため、大学全体及び各学部の入学者受入方針の更なる明確化と社会への周知を図る」

⇒中期目標では、「十分な基礎学力を備えていることを重視」「豊かな人間性を涵養」「地域や社会で活躍できる多様な人材を確保」を掲げているが、中期計画に反映されているか不明確

- ②中身が具体化されていない中期計画が散見される。中期計画には具体的な内容を記載し、6年間で達成すべき到達点を明確にする必要がある。

例) 【教育/大学院課程/大学院教育】 p2 (2)-イ-③

「社会人の高度な学習需要に対応した教育を充実する」

⇒社会人の高度な学習需要に対応した教育の充実策の例を掲げるなど、具体的な内容の記載が必要

- ③第一期とほとんど変わらない中期計画が見られる。第一期から継続して取り組む必要がある事項があることはもちろんだが、第一期の反省や改善点を踏まえた、第二期での新たな展開・取り組みを中期計画に掲げる必要がある。

例) 【研究/研究の実施体制等】 p4 2-(1)-②

「科学研究費補助金等への申請の支援体制を強化する」

⇒第一期中期計画でも「外部研究資金獲得に向けた支援を行う」ことを掲げていることから、支援体制強化の具体策などへの言及が必要

- ④大学の構成員の大きな要素である、学生に関わる中期計画が少ないように思われる。学生に焦点を当てた中期計画の項目がもっとあってもよいのではないか。

- ⑤中期目標で「中期計画の策定に当たっては、数値目標と実施年度の目標を定めて実施することとする」としていることから、数値目標について積極的な設定をお願いしたい。

- ⑥「検討する」「推進する」「図る」などの表現が目立つ。中期計画には到達点を定めた具体的な取り組みの記載が必要と考える。